

年 度 評 価 シ ー ト

課名 商業労政課

施設の名称 北部勤労者福祉センター	指定管理者名公益財団法人まちづくり公社
1 履行状況	

(1) 目標達成	
利用者満足度（職員対応）	
目標値88%以上、実数値97%	
(回答者数255人、「大変満足」「やや満足」と回答した人数247人)	
(2) 施設利用状況	
利用者数	
R5 実績値 61,407 人（前年度 55,044 人）（前年度比 111.5%）	
【参考】令和元年度（コロナ前）実績値93,193人、▲34.2%	
(3) 人員配置状況	
正規職員 2 人、嘱託員 2 人、パート 9 人	
(4) 事業実施状況	
静岡市勤労者福祉センター条例第 18 条の規定に基づき、乙に条例第 22 条各号に掲げる北部勤労者福祉センターの管理について、業務仕様書及び事業計画書に従って実施されている。	
ア パソコン講座	
(指定講座) 36 講座、延受講者数 997 人	
(自主講座) 7 講座、延受講者数 119 人	
スマホの台頭により、PC を日常的に利用する人が減少したことで、受講者数が減ったとの考え。また、PC 講座のニーズは動画編集・画像処理などのマシンスペックを要するものに偏ってきており、見直しが必要。	
イ カレッジ講座	
(自主講座) 47 講座、延受講者数 3,017 人	
コロナウイルス感染に伴って講座を分割し、一度に集まる人数を減らしていたが、5 類移行に伴いいくつかの講座を合併。結果として講座数が減少した。	

ウ フィットネス講座

(指定講座) 36 講座、延受講者数 2,900 人

(自主講座) 130 講座、延受講者数 16,399 人

ズンバ、ピラティスの人気が高く、毎回定員を超える人が集まっている。10月からの新たなクラスの増設により、利用者数を大きく伸ばした。

エ キッズ講座・ママベビ講座

(キッズ講座・自主) 28 講座、延受講者数 2,790 人

(ママベビ講座・自主) 26 講座、延受講者数 844 組

申込者の増減の波が激しく、昨年度定員超えであった講座が今年度は定員割れするといった状況に苦戦している。キッズ講座のダンスは安定してニーズ高く好調。

【検証・分析等】

各事業に課題があり、苦戦しつつも工夫の範囲で対応しており、人気の講座についても順調に参加者を増やしており、良好な状態であるといえる。

【確認結果】

○：協定書の内容が適正に履行されている。

2 市民（利用者）からの意見・要望の内容とその対応状況の評価（クレーム対応等）

【具体的な意見・要望の内容と対応状況】

意見等：サウナ室の入室制限1名となっているが、中で利用者が倒れていたらきづけない。

対応：巡回を強化、非常ベルの視認性向上。

意見等：敷地内の落葉多く、散らかっている。

対応：毎朝の清掃に加え、日中や夕方にも適時清掃を実施。枝を落として抑制。

【検証・分析等】

細かな要望が多いが、どれも真摯に対応している。

【確認結果】

○：適切に対応し、改善すべき事項は対応済み、又は改善に向けて作業中である。

3 市民（利用者）へのアンケートや満足度調査の状況評価

(1) 利用者満足度調査

施設利用者に対し、職員の対応の満足度の調査を実施（目標と同内容）

利用者満足度（職員対応）

実数値97%

（回答者数 255 人、「大変満足」「やや満足」と回答した人数 247 人）

【検証・分析等】

利用者の施設サービス満足度は高い。

【確認結果】

○：調査の結果が概ね良好である。

(2) 市民アンケート

施設の利用者に限定せず、一般市民を対象として、外部団体主催のイベントにて施設の認知度に対する意見等を求める調査を実施。

ア 対象者

市内3か所で開催されたイベントの参加者536人

(対象者居住地：葵区16.7%、駿河区56.0%、清水区12.3%、その他15.0%)

イ 当該施設を知っていると回答した人

128人(回答者総数536人、24%)

【検証・分析】

市民アンケートでは、施設の認知率は24%に留まったが、対象者の居住地は駿河区の比率が半数以上と高く、葵区在住の市民は16.7%であったことを勘案すると、良好な調査結果であったといえる。

【確認結果】

○：調査の結果が概ね良好である。

4 指定管理者の経理状況の評価

【収支状況】

指定管理業務についての収支状況については、適正に執行されている。

【検証・分析等】

収入はコロナ禍以前に比して同水準を維持している。支出は若干の増加がみられるが、前年度からは減少しており有意な傾向とは言えない。

【確認結果】

○：安定的な施設運営を行っており、また今後も継続できる見込みである。

5 総合的な評価（課題事項・指摘事項及びそれらの改善状況 など）

前年度事務事故発生の有無	無
前年度モニタリング調査における改善協議事項の有無	無

【検証・分析等】

前年度検出されたレジオネラ菌について、今年度の検出はなく、集毛器の調整など対策も怠ることなくなされている。

その他特筆すべき問題はなく、安定して運営されている。

翌年度以降の目標として、フィットネス以外の講座の受講者数が改善の余地があると考えられる。利用者のニーズの把握、集客力の改善や工夫を期待する。

【評価結果】

○：良好な管理運営であった。

※事務事故が発生したとき及びモニタリング調査において改善に向けた協議があったときは、必ず改善状況を記載すること。